

地下鉄駅の大規模改良等に関する東京都交通局事業評価委員会 議事要旨

日 時 : 令和6年1月30日(火) 14時00分～15時35分

場 所 : 東京都庁第二本庁舎24階 交通局局議室

出席委員:(委員長) 金子 雄一郎 日本大学 理工学部土木工学科 教授
(委 員) 伊東 誠 一般財団法人運輸総合研究所 特任研究員
鈴木 美緒 東海大学 建築都市学部土木工学科 准教授
中道 久美子 東京工業大学 環境・社会理工学院 特定准教授

審議対象:大江戸線勝どき駅改良事業(事後評価)

議事要旨:

1 交通局からの説明

(1) 事業の概要と目的

- ・改良に至る背景、改良前の課題、改良の目的

(2) 事業を取り巻く社会経済情勢の変化

- ・駅周辺の人口推移、開発計画進捗
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

(3) 事業による効果・影響等の算定基礎となった諸要因の変化

- ・駅乗降人員の推移
- ・事業費の増加

(4) 事業の効果の発現状況

- ・利用者への効果(改良前後の実績比較など)
- ・駅改良の効果まとめ

(5) 費用便益分析

- ・便益の算出フロー
- ・需要推計モデル(将来の勝どき駅乗降人員の予測)
- ・経路・出入口・時間帯別利用割合の設定
- ・駅構内の流動モデル
- ・駅利用者・駅通過者の時間短縮便益
- ・費用便益分析の結果

(6) 改善措置及び今後の事業評価の必要性

- ・事後評価のまとめ
- ・駅改良後の課題、改善措置の必要性

(7) 同種事業の計画・調査のあり方、事業評価手法の見直しの必要性

- ・混雑に応じた滞留箇所の検討と空間の確保
- ・事後評価における過去実績の扱いについて

2 質疑応答・意見交換

○便益について

委) 駅利用者便益について、ホームの混雑が緩和したということで、直感的に改札内の方が大きいと思ったが、今年度と将来の違いについて確認したい。

交) 今年度の利用者便益の内訳として、「改札内の降車」「出入口を新設した改札側の改札外の降車」で大きな便益が出ている。

将来においては、駅周辺の夜間人口の増加により、特に「改札外の乗車」で大きな便益が想定された。一方で降車については、コロナ禍からの回復による利用者増加を想定しているが、その分移動時間も増えてしまうため、便益としては減る方向になった。

○将来予測と評価方法について

委) 今でもコロナ禍からどれだけ戻るか、予測が難しいが、幅のある予測も必要だと思う。

また、数字だけでは分からない部分を定性的に評価できれば、より使っている人の感覚に近くなるし、将来を見据えて評価できるのではないかと思う。

交) 事業費が増えた一方、需要が減るといふ、事業者にとって厳しい状況での評価だった。

一方で、社会情勢の変化を踏まえ、コロナ禍も含め実績値を用いて評価をしたという点では、しっかりと評価ができたのではないかと考えている。

幅のある予測については、今後の事業評価において柔軟に対応できればと考える。

○改善措置について

委) せっかく駅が改良されたのだから、デザイン的に混雑に対する誘導ができると良いと思う。大掛かりな設備というより工夫でなんとかできないか？

交) 当局でも床面標示の事例があるが、他社の事例も勉強しながら考えたい。

○駅改良に係る計画のあり方について

委) 経路の選択肢が多様化したことは強調すべき効果であり、駅改良事業における重要な視点と考える。混雑時に別の経路を選べるだけでなく、例えば、個人の趣向に応じて経路を選べる、火災が起きた時に逃げられる、など。

交) 今回の駅改良目的の一つがボトルネックの改修であり、改札外で分断されていたコン

コースを一体にしたことで、経路選択肢が増える、利用する改札口にかかわらず出入口が選択できる、避難誘導の観点からも有用、などの効果を確認できた。

特に地下鉄駅については、大規模改良等の機会を捉えた解消を、今後も検討していきたい。

○その他

委) 資料において一部補足で説明が必要な箇所について、加筆をお願いしたい。

3 委員会としての意見取りまとめ

○ホームから地上へ円滑に移動するというミッションは達成できていることから、事後評価を再度実施する必要性は無いと考える。

○毎日の利用でお客様も習慣付いてしまっているかもしれないが、継続している出入口の混雑問題の改善策として、A 2 b 出入口についてはA 1 出入口などへの転換、A 3 b 出入口をはじめエスカレーターについては2列利用の啓発などを図っていただきたい。

○総括表(案)及び説明資料は、本日の意見などを反映し、提出や公表をお願いしたい。